

シリーズ●まちのいいとこ⑧ 池袋富士塚

富士山が世界文化遺産に登録されました。登録の内容は「富士山－信仰の対象と芸術の源泉」となっています。富士山信仰の貴重な遺構が氷川神社にあります。宮司の山内学さんにお話を伺いました。

この富士塚は、明治45年に造られたもので昨年100周年を迎えました。富士塚としては後期に作られたものですが、全山が溶岩で覆われ、稲妻型の登山道、奥宮、小御嶽神社、烏帽子岩、お中道など富士塚の特徴をよく現している遺構となっています。この溶岩は富士山のものを船で運び、港から陸路で運搬したそうです。

年輩の方に伺うと山頂からは本物の富士山がよく見えた場所だったそうです。ここでお参りをしてから徒歩で富士山に向かうというのが正式の参拝コース。誰でもが行けるわけではないので、富士講でお金を出し合い、代表者が富士山に登ったそうです。地域の富士講は解散してしまいましたが、信仰は残っており、7月1日の山開きにはたくさんの方がおいでになります。

最近では遠方からおいでになる方も増え、遠く関西からの方もいたそうです。はやりのパワースポットとしても注目されているとか。



この100年の間には、関東大震災と空襲を経験し、2年前には東日本大震災にも襲われました。そのたびに石が崩れるなどの被害を受けてきました。昔は子供の遊び場として人気の場所でしたが、今は安全のため、山開きの時にしか登ることができません。山開きに集う人々の姿を見ると、昔の信仰の様子を垣間見ることができるような気がします。

この富士塚は、四季折々や朝夕の時間ごとに思いがけず美しい姿を見せることがあるそうです。まわりの建物が高くなって富士山は見えなくなりましたが、今ではスカイツリーが見えるそうです。時代の移り変わりを見つめてきた富士塚です。



7月1日の山開き。

氷川神社宮司の山内さんから貴重な情報をいただきました。このまちづくりニュース51号に池袋本町の古地図を掲載し、池二小北側にあった稲荷神社が今はどうなっているか不明でしたが、明治42年に氷川神社に合祀されていたそうです。神社の歴史は連綿と続いているのだと感心させられます。

防災すごろく 池袋本町ふれあいまつり

毎年恒例の池袋本町ふれあいまつりに、今年も新しいまちづくりの会が参加します。

昨年も好評だった防災すごろくをさらに面白くして、楽しみながら防災を学ぶことが出来るようにしたいと思います。また、都市計画道路をはじめとして地域で起こっているまちづくりの課題についてのご意見を伺います。

お楽しみ参加賞も用意しています。お誘い合わせの上、おいでください。

■月日：平成25年10月13日(日)～14日(祝)

■場所：池袋本町公園

池袋本町 まちづくりニュース

Ikebukuro Honcho
Machizukuri News
No.55

2013年9月発行

発行：池袋本町新しいまちづくりの会
http://池袋本町.net
豊島区都市整備部地域まちづくり課
問い合わせ先：
tel 03-3981-2612
fax 03-3981-4204
編集協力：防災アンド都市づくり計画室

500人のテープカット

電車の見える公園開園式



池袋本町電車の見える公園は、桜の咲き始めた3月20日に無事開園式を迎えました。開園式は豊島区制80周年記念イベントとして「いのちの森植樹祭」と一緒に行なわれました。和太鼓グループ破魔による和太鼓演奏、高野区長のあいさつの後、新しいまちづくりの会の西野会長が住民を代表してあいさつを行ないました。その後、宮脇昭横浜国立大学名誉教授の植樹指導のあと、参加者全員によるテープカットが行なわれました。当日、会場にいらしたのは約500人。大部分の方が一列に並んでいっせいにテープにはさみを入れました。あまりに長い列のため、一部をご紹介します。

会場では、池袋本町四丁目町会による豚汁のお



500人のテープカット

つれづれに一言

池袋本町四丁目 青山日出男

東日本大震災の翌日、2011年3月12日未明3時59分、震度6強の大地震が発生しました。日本有数の豪雪地帯である長野県水内郡栄村です。大きな余震が2回続きました。被害は、死亡者3名(避難生活後)、家屋の全壊33棟、大規模半壊143棟。

その2ヶ月後に被災の状況を目にし、2年後に再訪した時、優先的にやらなければならないこと、ゆつくりじっくり腰を据えて取り組まなければならないことがあることに気づかされました。

木造震災復興住宅が、まるで以前からあったがごとく自然環境に融和していると感じたのは、2階建て、2戸で1棟となっている住宅です。屋根は、雪が自然落下しても雪掘の心配がない切妻となつています。とは言え、惜しむらくは、村の人たちの仕事力が活かされなかつたことです。

村の人たちの生活にとって重要な役割を果たしていた中条橋は、震災後除雪ができないために雪の重みで折れてしまいました。11月の完成に向けて急ピッチで工事が進んでいました。こうした栄村の震災復興等を目にし、そこに住む人々と行政との関係に思いをはせました。

栄村の新しい挑戦と自立に向かつて「すく〜」(辛抱強く)と声をかけてきました。



きりとり

郵便はがき

170-8790

東京 東京都豊島区東池袋2-60-3

グレイスロータリービル 7階

豊島区都市整備部地域まちづくり課

西部まちづくりグループ

(池袋本町担当) 宛

豊島局 承認 7214

料金受取人払郵便

差出有効期間 平成26年2月20日まで (切手不要)

都市計画道路と池袋本町のまちづくりについて考えましょう

木密地域不燃化10年プロジェクトとは

東京都では、都内の木造住宅密集地域(木密地域)を、大地震に襲われても被害を少なく出来るような街にするために「木密地域不燃化10年プロジェクト」を平成24年1月に策定しました。その取組みの主な内容は次の3つです。

- a. 都と区が連携した市街地の不燃化の促進(不燃化特区)
- b. 延焼遮断帯となる都市計画道路の整備(特定整備路線)
- c. 地域における防災まちづくりの機運の醸成

説明会で出された質疑応答の一部

区内の3回の説明会に参加しました。多くの質問が住民からなされました。私が聞いた中から印象的な質疑応答をご紹介します。

(文責: 青山静可、⇒は東京都、→は豊島区の回答主旨)

●地域への周知や意見反映について

問1: 事前の説明不足ではないか。

⇒昨年から出前講座や事前相談会で丁寧に周知に努めてきた。今後も区と連携して進めていく。

問2: 地元にもちづくりの会がある。住民意見を聞く場として活用してほしい。

→まちづくりの会では引き続き地域のまちづくりについて検討してもらいたい。新しい課題には別の懇談会も考えている。

●住環境について

問3: 新しい道路ができると住環境が心配だ。

⇒低騒音舗装や植栽などで影響を減らしたい。

問4: どのくらいの交通量を想定しているか。

⇒1日1万台から1万4千台くらいである。現在の劇場通りと同程度と考えている。

問5: 沿道では高層化を図るという説明があった。

→建て替えや不燃化の促進などの沿道まちづくり

説明会の感想

◆本町に住みだして4年目、副都心に近いのに、高齢者にやさしい、人情味があるまちだなあ、と思っています。都市計画道路ができると商店街も大きく変わるようですが、よりよい地域になるように話し合いに加わっていきたいと思っています。(三丁目Aさん)

は区が担当する。高層化は、共同化のことだと思うが、共同化が可能な場所があれば検討する。

問6: まちのコミュニティが壊されるのでは。

→そうならないように努めたい。

●防災について

問7: 計画道路が本町の防災に役立つか疑問だ。

→阪神淡路大震災では広い道路で火災が止まったところがある。

●土地や建物の補償について

問8: 家を建て替えたばかりだ。

→築年数に応じた補償を行なう。

問9: 立ち退き時期で補償が不公平にならないか。

→事業着手前に用途地域の変更について検討し、不公平にならないようにする。

問10: 移転する代替地はこの地域内に用意してもらえるのか。

→用意するつもりであるが、現状で手持ちの代替地はない。不動産業者と提携して情報も提供したい。

●道路の構造について

問11: 鉄道との交差部分はどうなるのか。

→北池袋駅付近は掘割で道路が鉄道下を通るよう計画している。下板橋駅付近は地下に谷端川があるため、その下を通せるかは検討中である。

◆地域住民の質問・心配事と東京都など事業者側の説明・回答がかみ合っていなかった説明会でした。この都市計画道路とその影響をどう受け止めるか、それがいつそう住みよいまちにつながる方法があるのか、様々な立場の方々の声をまとめてみんなで考えるべき時期になっていると思います。(四丁目Bさん)

沿道まちづくりと地区全体のまちづくり

今回の説明会は、bの都市計画道路特定整備路線についてのものです。これらの都市計画道路が出来ると、地区は3つの区域に分けられます。

- ①道路用地に直接かかる敷地(右図赤部分)
- ②道路用地沿いの沿道まちづくり対象地域(右図オレンジ部分)
- ③道路用地からは離れているが間接的に影響を受ける地域(右図黄色部分)

この3つの区域のうち、①については東京都が道路事業として個別に補償を行い事業を進めようとしています。②については豊島区が沿道まちづくりとして取り組むという役割分担になっています。②の範囲は道路計画線の両側30mの範囲が対象となります。③の区域の方は、今回の説明会があったことも知らなかった方が多いと思います。しかし、都市計画道路補助73号線と補助82号線は池袋本町地区の中央を十字型に通る路線で、地区全体に様々な影響を与えます。そして③は、不燃化特区制度を用いて地震に強いまちづくりを進める重要な区域であると言えます。

地域全体のまちづくりの視点で

都市計画道路の整備は、池袋本町に暮らすすべての人に関係します。都市計画道路については、賛成する方、疑問を持つ方、もっと情報を知りたい方がいらっしゃると思います。そういう多様な意見をくみ上げる場所が必要です。

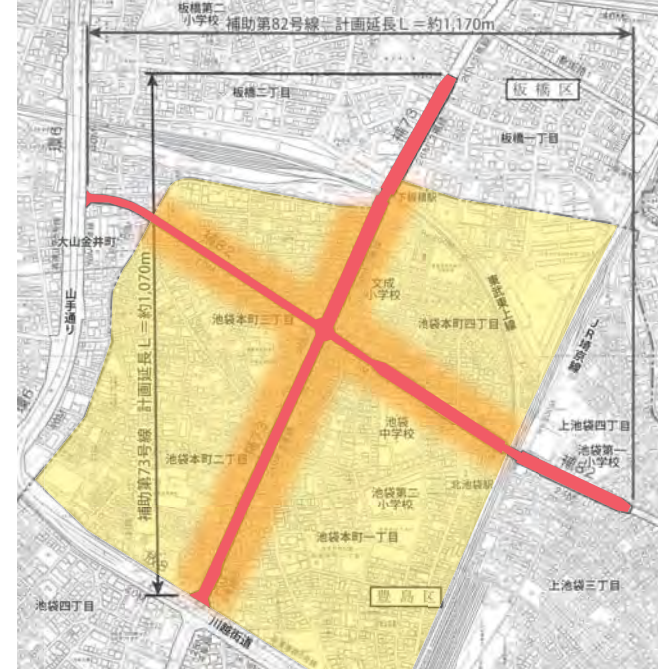
都市計画道路や池袋本町全体のまちづくりについてご意見やご感想をお送りください

●都市計画道路についてのご意見を募集しています。新しいまちづくりの会で取り上げて、意見交換の参考にさせていただきます。

●是非、新しいまちづくりの会にご参加ください。都市計画道路について、沿道のまちづくりについて、地域全体のまちづくりについて、新しいまちづくりの会がこれから果たす役割は大きいと思っています。是非、一緒に考えてみませんか。地域の皆さんのご参加をおまちしております。

●10月22日までにお送りください。

新しいまちづくりの会へご参加ください



また、今後30年以内に70%の確率で起こると言われている首都圏直下地震に備えて、不燃化・耐震化を進めて、池袋本町を地震に強いまちにしていかなければなりません。

新しいまちづくりの会では、地区全体のまちづくりの視点で、都市計画道路の整備にかかわりをもっていくことを、今後の活動の大きなテーマにしたいと思っています。下のハガキでご意見をお寄せください。また、会にご参加いただき、いろいろなご意見をお聞かせください。

きりとり

●都市計画道路についてのご意見

●池袋本町全体のまちづくりへのご意見

●新しいまちづくりの会への参加 (○をつけてください)

- ・参加したい
- ・参加できない

●お名前と連絡先

氏名 _____

住所 _____

電話 _____

東京都主催 木密地域不燃化10年プロジェクト地域密着型集会 講演会 延焼遮断帯の効果と池袋本町の防災まちづくり

都市計画道路には延焼を遮断する効果が期待されます。昨年度の震災復興まちづくり訓練でおなじみの首都大学東京准教授の市古先生に、延焼遮断帯としての効果や沿道まちづくりについてご講演いただき、意見交換を行なう会を開催します。

講師: 首都大学東京准教授 市古太郎先生

日時: 平成25年11月9日(土) 午後2時~4時(開場: 午後1時40分)

会場: 豊島清掃事務所2階講堂